

「みやぎの将来ビジョンタウンミーティング気仙沼」の記録

日 時	平成18年9月5日(火) 13:30~15:40
場 所	気仙沼市東新城 県気仙沼保健福祉事務所 2階大会議室
参加者	107名

<<概要>>

1 開会

2 三浦副知事あいさつ

- ・ 本日はお忙しい中御参加をいただき、ありがとうございます。
- ・ 県ではこれまでの総合計画を見直し、将来ビジョンを新たに策定することになりました。
- ・ 策定に至った一つ目の理由は人口の減少です。これまでの計画はすべて人口が必ず増えることを想定しており、事実増えてきていましたが、つい最近の国勢調査で初めて減少に転じました。人口が減っていく、ほとんど増えない状態の中で将来宮城はどうかということを考えなければならなくなりました。
- ・ 二つ目の理由は、地方分権や市町村合併の進展です。当地気仙沼でも合併が行われ、仙台以北で多くの合併自治体が誕生しています。市町村の形が大きく変わりつつある中で、仕事も国から地方へ、県から市町村へ、より住民の身近なところに行行政が存在するようになってきています。国の三位一体改革と相まって、地方自体も歳出削減や財源見直しなどで苦しい状況になる中、地方はどのような形で生きていかなければならないのか、少ない財源で地域振興を図っていかなければならないのか、という大きなテーマを突きつけられている状態です。
- ・ わずか7、8年の間にこういった大きな変化がありますが、こういった中で、今の宮城県がこれからどんな形であるべきなのかを皆様と一緒に考えたい、という願いもあり、今回のタウンミーティングとなったわけです。
- ・ ビジョン策定に当たっては、6月に総合計画審議会に諮問を行い、専門家の方々の御意見を頂戴することとしています。また、幅広く県民の方々の御意見をいただくことを念頭に、5月から7月までの間に5回県民会議を開き、自由な議論をしていただきました。
- ・ そして今回は3か所でタウンミーティングを開き、皆様からの御意見、そして夢のあるお話を頂戴したいと思っております。
- ・ 今日、このあと柳井先生から「人口減少社会における地域振興」というテーマで講演をいただきますが、まさにぴったりのテーマで大変参考になるお話が聞けると思っております。
- ・ また、地域で活躍されている、がんばっていらっしゃる皆様から御提案、御意見をいただいて、時間があれば会場の皆様からも御意見を賜って、私たち、皆様と一緒に考えて共に作る将来ビジョンにしたいと考えております。
- ・ 本日はこの会が実りある会となりますよう心からお願いいたしまして御挨拶とさせていただきます。

3 基調講演

演題「人口減少社会における地域振興」 講師：東北学院大学教授 柳井雅也氏

- ・ 地球の夜の写真を見ると、経済発展している地域ほど明るい。経済発展と同時に社会福祉政策も両輪をなす形で発展、あるいは対応がなされてきている。
- ・ 古くはヨーロッパでペストが流行し、人の身分や年収格差を問わず死へ追いやった。この対応には都市政策が必要だった。産業革命後、社会格差が大きくなり、弱者を救うことが必要になった。
- ・ 救い方にはいろいろある。人間が接すること（ホスピタリティ）。財政なり募金なりで支えること。政府がこれを政策化して「福祉政策」という形で展開されてきた。
- ・ 産業政策と福祉政策は一見別々でトレードオフのような関係に見えるが、実はお互いが切っけ離せない関係にあり、片方だけを強調して議論することは難しい。
- ・ しかし、地域政策ということで、特に産業政策に少しポイントをおいて、話を進めていく。
- ・ これには理由がある。日本はこれから少子高齢化社会に入っていく、国、県は財政が非常に厳しい。仮に福祉政策を重点的にやろうと思ってもその財源をどうするか。「富県戦略」ということで、少しでも県財政を強くする、税収を増やしていくという努力、ひいては県全体が発展していくといった視点を、どうしても持たなければならない。

- ・ 日本の総人口の長期推移をしてみる。
- ・ 2005 年の合計特殊出生率は 1.25。この計算では、2050 年には日本の人口は 1 億人を切るか切らないか。
- ・ しかし、歴史的に見ると、奈良時代の頃は人口 600 万人から 700 万人。縄文時代まで遡ると推定で 20 万人くらいだったと言われている。明治以降、急激に人口が増え、今大きな山を越えようとしている段階である。
- ・ だから、1 億人を切りそうだとか、人口減に入ったとかというのは確かに衝撃的な事実ではあるが、歴史の長い目から見たらまだまだたくさん人がいる。そんなに心配することはない。

- ・ 人口の問題に追い打ちをかけてきているのが、平均寿命の変化である。戦後急激に伸びた。
- ・ 昔の高齢化社会のイメージと今の高齢化社会のイメージが違う。90 歳の父の面倒を 60 歳の息子が見る、親よりも子どもが先に死んでしまう（逆仏）、といった現象すら今は不思議なことではない。
- ・ 高齢化社会のとらえ方を考えていく必要がある。

- ・ 人口ピラミッド（社人研作成）を見る。1950 年代はきれいなピラミッドだが、今ではもはやピラミッドになっていない。
- ・ 各県で人口ピラミッドを作成してもだいたい同じ傾向。地方ほど高齢化が進んだ形になる。
- ・ 大島あたりだと今高齢化率は約 35%だが、2050 年くらいだと全国の数字もそのくらいになる。

- ・ 日本全体の人口が縮小にある。1973 年を基準とすると出生はもう半分、死ぬ人は少しずつ増えてきている。少子高齢化である。

- ・ このトレンドでいくと、930～935 年後に最後の日本人が残るという計算になる。実際にそんなことはないが、何もしなければそうなるという点では非常に示唆に富んだ話である。
- ・ 人口減・少子高齢化について、日本の経済学者の評価は二つに分かれる。世の中はペシミスティックになる、国力がだんだん削がれていく、といった考え方。一方で、団塊世代に焦点を当て、この世代がごっそり抜けていく（退職していく）のは大きなビジネスチャンスだとう考え方がある。
- ・ 今日は、後者の方で話してみたい。
- ・ グリコの「タイムスリップシリーズ」、食玩といって本来子どもが買うものであった物を、実際、団塊の世代が、しかも箱ごとまとめて買っていく。これでグリコは 100 億円儲けた。タカラも同様に万博パビリオンの模型を売り出し、全国で 350 万個売れたという。
- ・ 「子どものもの」といった先入観で見ると、考え方を制限してしまう。ところが、「これは大人の玩具だ」と考えていくと、そこに新たな商機が見えてくる。
- ・ こんにやく会社が中国の大連に進出してドッグフードをつくっている。何でつくっているのかというと、日本ではペットが運動不足でダイエットが必要だという。そこでペットフードにこんにやくを混ぜて、大儲けしている。
- ・ また、ここ気仙沼市三日町のキングス・タウン（注：市街地再開発事業における再開発ビルで、特養ホーム、在宅介護センター、市営住宅、コンビニ等が入居）もすべて埋まっていると聞いた。
- ・ 「何やってもだめだっちゃ」ではだめ。何か考えれば、いろんなところにお金が落ちている。何故落ちているかというのは、分析的にお話をしていく。
- ・ 2007 年から 3 年間で、労働力市場から 665 万人が退場すると推計されている（cf. ノート一枚にボールペンで点々と書いていき、ノートが真っ黒になるのは 2 万点。）。団塊の世代が、波が引くかのように去っていく。
- ・ 一方で、50 代後半で働いている人、働く意志のある人（求職者）の割合は、男性 92%、女性 60%。60 歳の時点でも 71%、40%。さらに 65 歳では、46%、24%。依然として働いている。実は、人口減によって非常にペシミスティックだという論調を取る人たちは、こういう計算を入れない。
- ・ 皆さんの周りにも、退職してもまだ働いている人が結構いる。働かないのは若者ばかり。
- ・ 計算上労働力市場を去っていく人とまだその後も働いている人との差し引きの部分をどう考えるか。
- ・ 実は、これにお金を絡ませてくると面白いことが分かる。
- ・ 今日日本の金融資産は 1,400 兆円あるが、おそらくは 8 割以上は 50 歳以上の人を持っていると思われる。60 歳以上でも 6 割。お金持ちである。年金とかいろいろありますから。ところが 40 代は貧乏で平均 800 万円借金がある。ローンを抱えたり、子どもの教育もあるし。
- ・ しかし、55 歳過ぎてからその収支はトントンとなり、だんだんお金が貯まるようになっていく。そういった世代の人たちがちょうどリタイアしようとしている。彼らは何にお金を使うか。自分のために使う。例えば、美容、健康、若返り、ダイエット、癒し、そして安心・

安全。そうすると、そういった産業はマーケットとしては大きくなる。

- もう一つ話をすると、実は今、人手不足が起きている。665万人の引退に対して、若い人の供給が追いついていない。典型例が、学校の先生である。ずっと先生の数を削ってきたが、最近削り過ぎとなり、辞めていく先生の補充が間に合わなくなった。また、何年か前に大きな銀行で金融システムがおかしくなって大騒ぎになった事件があったが、これもプログラムを組んでいた人たちがみんなリタイアしてしまい、その後の若い人たちがコーディング（プログラム）を見ても分からず修正できないという事態になった。
- この需給アンバランスを補うために、統計上見ると失業者が減っている。マスコミの話では、一般的には景気が上向いたからと伝えているが、実は、去っていく人たちに対する供給という形で見ると、ベースのところでは人口問題というのは非常に大きく響いている。
- 実際、数字を見ると、2003年の失業者は361万人。2005年4-6月の統計では289万人。つまりこの間に72万人の失業者が減っている。20%もの雇用改善である。確かに、地方のテンポが遅いが、東京を中心とした地域では急激に雇用が回復してきている。
- 当然、失業率も1.1ポイント下がってきている。
- このシミュレーションを続けていくと、2004年との比較で、2010年までには労働力人口が178万人ほど減る。失業者はその結果135万人まで減る。そうすれば失業率は2.1%。これはバブル絶頂期と同じ数字である。にわかに地方で同じ状態は実現しないと思うが、今中央ではそういったことが起きている。
- 石川島播磨重工業が計算したところ、年間の労務費が一人当たり850万円。今後420人前後の退職者が見込まれており、それにより年間35億円減る。一方で新卒を200人程度採用し、彼らの雇用にかかるお金は一人当たり500万円、全部で10億円。退職者を再雇用しても16億円で、差し引きの約9億円を新たな研究開発や設備投資にまわすことができる、となった。
- 企業は、昔は辞めさせるためにリストラをやったが、今はリストラしなくても順番に辞めていってくれる。自然減で補えるようになった。
- こういったことを金融・保険を除く10億円以上の全産業で計算すると、総人件費は50兆6000億円。その6%、3億3000万円が（自然減で）浮いてくる。これは営業利益22.2兆円の14%に相当する。このお金は、おそらくロボット開発や他事業部門などへ使われてくる。
- これまで日本人の最大の買い物は家であった。家を買うことが最大の目標で、家計の中で大きな位置を占めていた。家を買うには貯金が必要である。最低でも300万円か400万円が必要で、これは社会的には半強制的貯金と呼ばれ、全体で362兆円くらいあった。
- 2015年くらいになると世帯数減の局面に入る。そうすると、今ある家の1割程度は流通在庫となり、取り壊されるか、不動産市場に流れてくる。当然供給過剰にもなる。また、少子化が進んでいるので、親の家をリフォームして当面はしのげるようになる。結果的に、この半強制的貯金はかなり解放されてくる。
- そうすると、余剰資金はどこに行くか。貯蓄にまわる。一部は株式市場にまわる。一部は自分たちのためにお金を使うようになる。

- ・ 戦後、苦勞した人たちが目指したのは、まず家。その息子にとって大事だったのは、車やバイク。自分たちからずっと下の世代にとっては、何なのか分からない。自分探しの旅に海外に行くなど、多様化している。どんどん変わっている。
- ・ 物の使い方、お金の使い方が変わっていくということは、それに対応した産業構造に変えていくということである。そのとき、健康とか福祉とか、あるいは介護サービスとかが重要になってくる。こういった点で（経済と福祉が）結びついてくる。新しい産業が出てくる。
- ・ 新しい産業はハイテクでなくてもいい。日本の産業技術を考えるときは研究開発を中心としたハイテク産業がメインとなるが、これを地方でやりなさいというのは難しい。勝負するならば、例えば、デザイン、触り心地とか。ハイテクでなくても、そういった感触・感覚をきちっと提供できれば、それを好んで買ってくれる人がいる。
- ・ そういう意味では何かやらないといけない。県はそれに対して何かをサポートしなければならない。
- ・ 知らないうちにいろんなチャンスを逃している。これをつかまえていく。社会は変わっていくので、そういったものにあわせた産業、産業構造の組み替えを考えていく必要がある。簡単にいうと、自動車や半導体でなくてもいい。
- ・ これを地域のベース、皆さんの身近なところに追い込んでいきたい。
- ・ 宮城の人口増加率がマイナスに転ずるのは間違いない。そして 2025～2030 年にはほぼ全国がマイナスになる。東京でさえ厳しい場面を迎える。
- ・ 高齢人口も、だんだん高率になる。2030 年ころには全国的に 30%を超えてくる。
- ・ 気仙沼市も人口減の状況は厳しい場面に来ている。こういった中で、いかに地域政策を考えていくか。そうなると、自分たちが持っている産業で何が勝負できるのか、ということになる。
- ・ 例えば、フカヒレで産業クラスターを形成する。あるいは、まちなかでお年寄りが増えているので、お年寄りを前提とした住みよい街をつくってそれを産業化していく。そういったことをいろいろ考えていく材料はあるかと思う。
- ・ 今、おんぶにだっこみたいな形で仙台にすがっている人もたくさんいると思うが、実は仙台すらも、街中を中心に人口減という状態が厳しくなっている。
- ・ ただ、人口減はビジネスチャンスだとさきほど言ったが、こういった見方もある。例えば、2002 年の一人当たり医療費は、65 歳以上の人は 15～44 歳の人の約 7 倍である。これでひとつマーケットができる。
- ・ また、これから 2030 年までに平均 0.33%ずつ人口が減少し、65 歳以上の人口比率は 0.37%ずつ増えると言われている。これは医療費の面で GDP を 0.24%上げる効果がある。一方で 0.33%の人口減少は GDP を 0.14%押し下げるが、差し引き 0.1%の成長は可能となり、ここに大きなマーケットがある。
- ・ それから、2020 年までに特別養護老人ホームは 5,600 か所必要と言われるが、その経済効果は 4.4 兆円と試算される。こういったものにきちっと取り組んでいけば、そこに新しい雇用やホスピタリティが生まれてくる。これを県の新しい政策、地域政策という形で展開していくことはありうる。

- ・ こういった考え方をもって新しい産業を興していく，先取りして産業政策を立案していくことが大事になってきていくのではないか。
- ・ 仙台も 65 歳以上が多くを占める地域がたくさん出現しつつある。だんだん高齢化しつつある。こういった人口問題の中で，こういったことが地域政策とててくるか。
- ・ 自分が前いた富山を例にすると，人口密度の高い地区ほど人口減が激しく，結果として高齢者が取り残された。たくさんあった小学校も統廃合しなくてはならなくなった。
- ・ こういった地域的，空間的な問題点をどのように統合化していくか。逆に考えると，既存のインフラをどう再利用していくか。こういった土地利用の問題が大きくなっている。
- ・ 宮城の場合，財政収支（＝税金 - 政府支出）はマイナス 4,669 億円であり，これだけの額を中央から持ってきているわけだが，内部で資金バランスが確立していないことになる。本当は，この値がプラスとなるべきであり，どのようにバランスを取っていくかが大事。
- ・ 地域政策として考えるとこのようになる。財政収支に関しては，歳出を抑制し，歳入の増加を図っていく。域際収支では，よそに売れる物を売っていき，よそからは少なく買う。地産地消である。貯蓄については投資拡大である。
- ・ さきほど言った，安心・安全，健康，若返り，ダイエット，癒し，といったものは，新規参入しやすい。ゴールは遠いけれども。そして歴史的な差というのは日本国内ではほとんどないと思う。
- ・ こういったところに焦点を当てて，例えば地産地消でやっていくとき，健康に使えるか，ダイエットに使えるか，あるいは別のものに使えるか，というふうに考えていく。そういった産業化をしていく工夫がひとつ重要になっていく。他地域に売れる財・サービスの生産というのはそういったところにある。
- ・ 氷見の例を挙げたい。気仙沼と同じように漁村で，食材が豊かである。それなのに何故有名にならないのかと悩んでいた。
- ・ そのとき氷見では人を入れてきた。三國シェフを連れてきて食材探しをしてもらった。5 等級の牛，魚種の多さ，といった地域の発見をしてもらった。三國さんほどのビッグネームとなると，地元レストランの人たちがフランス料理の手伝いに来て，三國さんから「君たちは本当に良い場所に住んでるね」というねぎらいの言葉をもらい，自分たちの土地に対する誇りを見つけていった。
- ・ これまで県の政策，地域政策は，お金を動かす政策，プランニングをしていたが，こういった人を動かす政策，人を引っぱってきてその地域をブランド化していく政策，このようなやり方が大事である。
- ・ 今の時代は，人，もの，金，それに情報だが，人と情報は一緒である。地域ブランドを作るのに，金がない，ものはある，ということであれば，最初の人と情報を上手く使うということである。そうすれば地域がもう少し元気になっていくし，場合によっては新しい投資を生み出すことも可能である。
- ・ 何も無い時代こそ発展のチャンス，苦しい時こそ飛躍のチャンスと新しいアイデアが生まれる。ぜひとも明るい未来を作っていきたいと思う。

4 「(仮称)みやぎの将来ビジョン」骨子案説明(宮城県企画部政策課 伊藤課長)
資料により説明

(休憩)

5 意見表明

【《商工》気仙沼商工会議所副会頭 菅原昭彦様(気仙沼市)】

- ・ 気仙沼地域は、他地域が景気よくなっても、なかなか景気がよくなり、苦慮している。
- ・ 5, 6年前から食を核にしたまちづくりということで、食産業、観光業、飲食業、加工業、漁業といったものをひとくくりにして運動を行っている。三國シェフなどにも来てもらい、地域の良さを外の視点から発掘して発信していこうという活動もしている。
- ・ ビジョン策定に当たっての大きな視点について、2つ提案したい。

骨子案に書いてあることは確かに必要だが、宮城らしさのインパクトが見えてこない。ここから、県とは何か、必要か、必要だとすればどうしたらいいのか、といったことも議論の最初にちょっと考える必要があるのではないかと思った。合併の進行はあらためて県の存在意義を問うような結果となっており、県境を越えての連携も盛んな中で、宮城県が宮城県たる所以をきちんと発揮するには、ビジョンの中に県でなければできない施策をきちんと謳っていくことが必要。

道州制の視点は今後のプランにどう反映されていくのか。東北の中心としてイニシアティブ、リーダーシップを発揮していくべきであり、そのことが今の宮城県内における地域発展の方策にもなっていくと思う。

- ・ 細かい点は3点ほどある。

一つは、今後の政策の中で、戦略的な投資、戦略的な政策展開が必要だと思う。宮城の文化や個性を支えてきた食産業をきちんと扱っていくことも大事な展開ではないか。単に効率性の問題だけでなく、どこにもない宮城県の宝として扱えるような産業、地域には、きちんと投資をしてほしい。県を富ませるためにどういう投資をするかを考えていく必要がある。

二つ目は、横の連携を重視した施策と運営が求められると思う。例えば「食」というくくりではいろいろな産業が連携しないとできない施策がでてくる。

三点目は、宮城県と仙台市、同じ権限を持った自治体が同じ県の中にあることで宮城県の権限の及ばない部分もあるが、仙台市との連携、役割分担を十分考えながら進んでいく必要があると思う。連携なくては戦略的な施策展開はできない。

【《水産》宮城県漁業青年団体連絡協議会会長 三浦千加良様(気仙沼市)】

- ・ 気仙沼市階上でカキ、ワカメの養殖業を営んでいるが、20代の漁業者がいない。30代も2人程度。10年後、働き盛りの40, 50代が少なくなってしまう。一人当たりの漁場が広くなるという楽観的な考え方もあるが、一人でやっていけない部分が多く、大変な問題である。
- ・ 青年団体では打開策として、小中学生を対象とした体験学習を行っている。本当は高校生のほうが将来的に職業につながるのだが、声をかけているものの高校生からの申し込みはない。
- ・ 自分の10年後として、養殖業の会社を作った方がいいのかな、という考えがある。今の状

況では、地元の海では親がやっていないと継ぐことができない。会社にすると、従業員に仕事を覚えてもらい、独立してもらったり、他の海域で仕事をしてもらったりしてもいい。

- ・ 津波、地震の可能性が高い中で、実際に起こってしまうと、60、70代の人たちがみんな仕事をやめてしまうのではないか、宮城の水産業が衰退してしまうのではないかと恐れている。県などの行政では、どう考えているのか。打開策などについて真剣に考えて欲しいと思っている。
- ・ 明戸虎舞打ちばやしという伝統芸能をやっており、小学生対象に教えているのだが、学業を終えて気仙沼から出てしまうと、その後で次の小学生に教えてくれる人が残るのだろうか。江戸時代から続いているものなので残していかなければならないと思っている。
- ・ 地元に残る産業などを発展させれば、10年後、明るい未来があるのではないかと思う。

【《教育・福祉》子育てサポーター「てって」副会長 小野寺範子様（登米市）】

- ・ 最近、親が子どもを、子が親を、また子ども同士が、という起きてはならない事件が相次いでいる。核家族という言葉も当たり前となり、聞かれない時代となった。
- ・ 今こそ、社会教育、家庭教育に県全体で取り組まなければならないと思う。
- ・ 家庭教育は一つの部署だけでは成り立たない。他の部署との連携・協働で家庭教育に力を入れてほしい。
- ・ 音楽講師をしているが、ピアノ教育の前に音楽教育をしている。根をしっかりとしないと木は大きく育たないと思うからである。今、小学校から英語教育をしようとしているが、日本語の読み書きがきちんとできないうちからやっても、根ははらないし木は枯れてしまう。
- ・ 宮城県の図書館数は29館（平成14年度調査）。人口10万人あたりでは1.2館で、全国ワースト2位。美しい日本には美しい言葉、学力向上、情操の面でも生涯学習の面でも、図書館の増設を望む。
- ・ 出生率も全国平均を下回り、将来の宮城県に不安を感じる。全国もそうだが、小児科、産科がないことはとても不安で、少子化に拍車をかけているとおもふ。登米でも市立病院では入院体制がなく、計画出産を余儀なくされている。宮城大学で助産師の養成に力を入れてほしい。
- ・ 保育所の待機児童が多い現状である。横浜では保育所も民間委託をしているが、宮城ではしてほしくない。
- ・ 10年後、美しい宮城県、よい環境で子どもを生き育てられる宮城県であるように期待している。

【《グリーン・ツーリズム》農漁村体験型民宿「のんびり村」村長 坂下清子様（石巻市）】

- ・ 「のんびり村」を始める前から、大好きな地域でどう生きていくか、どう活かしていくかということグループで勉強してきた。勉強会で、片道しかない人生を自分の夢に向かって生きる、という前向きな講演を聞いて、平成5年に民宿を始めた。
- ・ 自分がいいと思って用意していた「食材が豊か」「自然に恵まれている」ではなく、来てくれたお客さんは意外にも「星がきれい」「鳥の声音がいい」「空気や水がおいしい」といったことに感動していることを知って、普通でいいんだ、と肩の力が抜けた。普通のことをしていのに、それが嬉しいという姿を見て、これからも土地でとれる食をどう伝えていくかということに力を入れたいと思う。

- ・ラムサール条約とか世界遺産とかあるが、それに及ばなくても自分たちの住んでいる所が「宮城県の遺産」としてでも指定されたら、地域の人たちが意識的に「ここは良い場所なんだ」と思ってくれるのではないか。県内にそのような残したい所はたくさんあると思う。

【意見表明を受けての三浦副知事コメント】

- ・皆様からそれぞれの立場で、大変貴重な御意見、御提言、それに夢もお話しいただきました。これからも、子どもたちのため、地域のため、後継者のため、自然を活かすため、さまざまな分野で御活躍いただきたいと思います。
- ・菅原さんの御指摘については、8月25日の総合計画審議会でも委員の一部からやはり「宮城らしさ」が必要との意見がありました。まだ骨子案ですので、本日の御意見なども踏まえ、少しずつ練り上げて、最終的には宮城ならではの将来ビジョンにしていきたいと思います。
- ・確実に地方分権が進み、住民の方々と接する第一番目の窓口は明らかに市町村となっており、そういった意味では明治以来の府県制は大きく揺らいでいるのは事実です。また、経済活動などをみると分かるように、行政区域がどれほどの意味を持つか、と思われる面もあります。現実には、宮城県一県だけで生きていける時代ではなく、おそらく10年後には、広域連携というか大きな括りで生きていく枠組みがある程度できているのではないかと、我々はそのあり方を考えていかなければいけないのではないかとと思います。
- ・仙台市との関係については、仙台市のことは仙台市にお任せし、我々はそれ以外の地域の振興のために力を注ぐのが本来ではないかとと思います。現実には、財源や権限もそれだけの力は政令指定都市に備わっていますので、それを活かしつつ、菅原さんがおっしゃったように、役割分担をしっかりと、よりよい宮城県のために努めていきたいと思います。
- ・横軸連携についてはおっしゃるとおりで、「食」については、東北・北海道は日本で唯一食料自給率100を越えている地域で、食の宝庫ですので、それを活かすことが大事だと思います。東北ならではの産業づくりというのは必要だと思いますし、大都市に飲み込まれるのこのない地道な食産業づくりに我々としてもかんばっていききたいと思います。
- ・三浦さんの後継者不足、海をどう守るかといったお話には大変興味を持ちました。会社設立は面白い手法だと思いますし、三浦さん御自身が、海を大切に、海を守り、そして自分が海に生かされていることを自覚していらっしゃるからこそこういった御発言になったのだと思います。私どもも大変傾聴に値する考え方で、そういった仕組みを可能性も含めて検討していかなければと思います。
- ・県内にも虎舞のほか田植え踊りなど無形文化財と呼ばれるものがたくさんあります。そういった伝統を孫たちに残しながら、地域文化を守り育てていくことは、次にお話のありました小野寺さんの、子育て、地域の教育、家庭教育にも通じる大事なものだと思います。
- ・小野寺さんからは子育て、家庭教育などについてのお話がありました。専門家から聞いたのですが、子どもの脳の発達には順番があって、最後に発達していく前頭葉は実は人間の精神的なバランスを保つのに最も大事な部分だそうです。この前頭葉の発達時期が、小学校の中学年から高学年だと言われています。昔は、小さい頃から家庭、学校、地域で子どもたちと一緒に育て、小学校になると小学校らしい遊び方、その中から子どもたちは様々な社会的な活動・体験をしながら大人になっていきました。

- ・ 心配なのは、小野寺さんがおっしゃったように、難しい世の中で事件が頻発していることです。IT、ゲーム、テレビでほとんど家に閉じこもっているということが子どもの精神発達に障害となる、ということを行っている人がおりますが、正しいかは別としてある意味では当たっていると思います。年齢に見合った体験をさせてあげることが我々大人の責任だと思いますし、子どもが減る中で大切に育むためには、やるべきことをしっかり考えつつ、このビジョンにも活かさなければと思っております。
- ・ 坂下さんはいわゆる女性起業家の草分けでもいらっしゃる方ですが、地域の資産を大切にすることを他の人に学んでもらいたいという気持ちは大事だと思います。私も歳をとるに従い、郷土の美しさ、素晴らしさを何となく分かってきましたが、本当は30、40年前に分かっていたらもうちょっと違うことができたのになあと感じております。この東北、宮城が持っている素晴らしい資産、資源を大事にする施策をしっかりとやっていかなければと思います。
- ・ このあと各圏域の地方振興事務所長からコメントさせていただきます。

【若生気仙沼振興事務所長コメント】

- ・ 担い手問題については、何故跡を継がないのか、何故やりたくてもできないのか（参入に関する規制）というところについて我々としても研究しなければならないと感じた。
- ・ 大谷でワカメの協業化に向けた実験研究を行っている。
- ・ 皆さんの知恵、意見をもとに事務所としては機動的に動いていきたい。

【神山登米振興事務所長コメント】

- ・ 地域の特色を活かし産業発展につなげたい。登米地域は米だけでなく畜産（牛・豚）も盛んであるので、肉だけでなく加工等も組み合わせ、大きな食産業に育てたい。
- ・ 富県戦略の目標は、子どもたち、人々が安心して誇りをもって家庭生活、社会生活を送れるようにすることだが、人間をまっすぐに成長させるには家庭教育、社会教育が大事であることを忘れずにやっていきたい。

【阿部石巻振興事務所長コメント】

- ・ 地域の資源、資産を大事にしていくには地域のブランド化という視点が必要と感じた。まず、地域の人たちが認識すること、そしてそれをどういうふうに外部に伝えていくか。今、食ブランドが言われているが、それだけでなく地域全体をブランド化する産業は何か。住んでいる人たちが自慢できるものを外部に発信していくことが、交流人口の増加や都市との交流、団塊世代の呼び込みにつながっていくのでは。
- ・ 後継者の育っている浜があるが、それは漁業が儲かっている地域である。儲かっているから後継者が戻ってきて継ぎ始めている。どういうふうに儲かる産業にしていくか。これは農業も同じであり、これからはこういう視点を入れた産業政策が必要と思っている。

6 参加者との意見交換

参加者から提出された意見記入表のうち、主な意見を紹介。最後に三浦副知事がコメント。

《産業について》

- ・（本吉町 45歳 男性）
富県戦略推進に向け，県も地域と一緒に地域資源の掘り起こしやその活用に取り組んでほしい。
- ・（気仙沼市 46歳 男性）
新規就農者，就漁者の受け入れ体制について検討してほしい。

《雇用について》

- ・（気仙沼市 38歳 男性）
障害者や高校生などの就職問題をしっかりやってほしい。地方で大きな問題になっている結婚に向けた出会いの場づくりに取り組んでほしい。

《保健医療福祉について》

- ・（気仙沼市 61歳 女性）
医師不足は重大な問題なので早急に解決する手段を検討していただきたい。また，人口減少の中でシングルマザーが増えている現在，保育所の充実など，安心安全の子育て社会を希望する。
- ・（本吉町 56歳 男性）
高齢者福祉，子育て支援など今後重要となる福祉分野について，産業化などを進めてほしい。
- ・（気仙沼市 47歳 女性）
地域医療についてはかなりもとなない状況で，地域で最期まで人生を全うしたいができないと思う。

《土木・交通について》

- ・（気仙沼市 48歳 女性）
地方は都市と比べ交通の便が悪く，車がないと移動できない。公平な交通網の整備をお願いする。

《環境について》

- ・（気仙沼市 69歳 男性）
気仙沼市では環境基本計画を策定しているが，計画通りに実施されず，生活の中で未だ徹底されていないことも多い。例えば，生活排水の問題や，ビン・缶・新聞などの資源としての再利用について改善が必要。また，気仙沼市では河川の環境保全に取り組んでおり，年々きれいになっている。これからも，国・県・市が別々ではなく一体となって取り組んでほしい。

《その他》

- ・（気仙沼市 61歳 男性）
人の問題，財政の問題もあり，実行できないものもでてくるのではないか。地方の時代と言いながら，県は人も金も出さず丸投げになるのでは無責任と考える。実行することこそ重

要である。

- ・（気仙沼市 67歳 男性）

産業分野では、均等ある発展を望む。教育分野では、家庭のしつけ、基本的なことが不足している。環境分野では、歩きたばこ、ゴミのポイ捨てが目立っており、もっと厳しい法制度を。

【三浦副知事コメント】

- ・ さまざまな分野で御提言、御意見を賜り感謝申し上げます。
- ・ これらを受けて宮城らしい夢のあるビジョンをしっかりと作っていきたいと思いますので、これからもお力添え、御指導をお願いいたします。

（最後に、会場から1名発言したいとの声あり）

- ・ ビジョン骨子案において主な取組の内容を見ていたが、それぞれ振興策があるわけだが、商工業、特に商業政策がうたわれていない。商業政策に真剣に取り組んでいただきたい。

7 閉会